

実用フランス語技能検定試験（仏検）存続のためのご寄付のお願い

フランス語教育振興協会（APEF）は、1981年の創設以来、実用フランス語技能検定試験（仏検）を実施し、日本におけるフランス語教育の振興に貢献してきた公益財団法人です。

仏検は文部科学省と在日フランス大使館の後援の下で日本の機関が開催する唯一の公的なフランス語検定として国内外から高い評価を受けています。1級から5級まで、仏検の7つの級は、学習到達レベルを表す安定的な指標として個々の学習者の動機づけを果たすとともに、推薦入試・交換留学の選考要件、就職活動、社内昇進や海外勤務の選抜評価といった教育および社会の様々な場面において、信頼に足るフランス語の評価基準として活用されてきました。仏検の独自性は日本語を母語とする学習者に特化したことにあり、上級合格者は高いフランス語運用能力を獲得しています。そのことは、1級合格者への国家資格「通訳案内士」外国語筆記試験（フランス語）の免除が認められていることにも表れています。

仏検の累計受験者数が90万人に近づき、来年2021年には創設40周年を迎えようというその矢先、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年春季試験は開催中止を余儀なくされ、1万人ほどの方に受験機会を提供することができなくなりました。事業収入の9割を仏検の検定料に頼る当協会の運営は、春季試験の中止により年間収入の4割（前年度実績で約6000万円）が途絶えました。現在、仏検実行委員会では秋季試験の開催に向けて慎重に議論を重ねていますが、感染症対策ガイドラインに沿った会場運営には膨大な確認と準備が必要になり、万が一感染拡大の再来によって開催が不可能となった場合には、仏検の実施はおろか、実施団体である当協会の存続すら危ぶまれます。

漸減傾向が10年来続く仏検の受験者数と平行する形で事業収入が減少しておりますが、信頼性の高いフランス語検定を継続的に行い受験者に成績評価を提供していくことは学生生徒から高齢者まで幅広い層のフランス語学習者の期待に応えるものであり、また、「仏検」の維持発展こそグローバル社会における多様性の尊重の維持に貢献するものと言って過言ではありません。しかし、現在の事業の継続には基礎となる協会運営の資金が緊急に必要です。組織の継続がかなったあかつきには、皆さまのご意見やご指摘を真摯に受け止め、ご指導ご協力を積極的に仰ぎながら、協会運営のスリム化に努めるとともに、新しい「仏検」のあり方を模索し構築してまいります。日本におけるフランス語学習の柱として39年にわたって存在し続けてきた「仏検」を新しい時代へと繋ぎ、生涯学習社会におけるフランス語能力検定制度として発展するためにも、当協会の公益事業「仏検」の活動にご理解とご賛同を賜り、ぜひご寄付をお寄せくださいますよう、心からお願い申し上げます。

公益財団法人フランス語教育振興協会
理事長 西澤 文昭